

支店長の わがまち紹介 第90回



我孫子市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆様との密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は千葉県我孫子市です。北柏支店長が我孫子市長 星野順一郎氏にお話を伺いました。

我孫子市は第49回(2017年8月)の本コーナーで紹介させていただきました。改めまして、我孫子市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

(取材日:2020年11月11日)

■ 大切な財産を守り、次世代へ引き継ぐ

本市は昭和30年4月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町、昭和45年7月に我孫子市となり、今年、市制施行50周年という節目を迎えました。

かつて本市には、手賀沼と利根川水系が織りなす水と緑の豊かな自然環境に惹かれた、講道館柔道の創始者で教育家の嘉納治五郎をはじめ、柳宗悦や志賀直哉、武者小路実篤等「白樺派」の文人、国際的ジャーナリストの杉村楚人冠等がこの地に居を構え、文筆活動等を展開しました。

その文化は現在でも息づいており、人気作家の上橋菜穂子氏や古谷田奈月氏が手賀沼のほとりで執筆活動を行っています。

本市は市制施行50周年を記念して、上橋氏を名誉市民の1人に決定しました。上橋氏はNHK大河ファンタジー(ドラマ)で放送された『守り人』



我孫子市長
星野 順一郎 氏



北柏支店長
佐藤 良和

シリーズをはじめとする多くの作品を発表し、2014年には児童文学のノーベル賞と称される「国際アンデルセン賞」の作家賞を受賞、さらに、世界数か国で翻訳されている『獣の奏者』は英訳版で2020年に「プリンツ賞オナー」と「バachelダー賞オナー」¹をW受賞する等、世界を舞台に活躍されています。

また、プロゴルファーの青木功氏も名誉市民に選出しました。青木氏は本市で生まれ育ち、昭和39年のプロテスト合格後、米国レギュラーツアーで日本人初のシード権獲得や日本人男性として初の世界ゴルフ殿堂入りを果たす等、数多くの偉業を達成された方です。

※1 バachelダー賞オナーは日本人初の受賞。

社会貢献活動にも力を入れられ、チャリティゴルフ大会の開催をはじめ、がんや白血病を患う子ども達、東日本大震災で被災した子ども達等への寄付を行うほか、熊本地震や九州北部豪雨の被災地への復興支援等にも積極的に取り組まれています。

これまで本市の名誉市民の受賞者は、歴代の市長や議員等でした。しかし、名誉市民は、広く社会文化の発展に貢献した本市ゆかりの方の功績を称えると同時に、市民の郷土愛を高めるために贈られる称号であることから、今回、初めて民間の方を選出しました。

そのほか、今年度、市民文化スポーツ栄誉章では、プロゴルファーの海老原清治氏、ジャパンラグビートップリーグチェアマンの太田治氏、日本サッカー協会会長の田嶋幸三氏の3人を選出しました。

本来であれば50周年記念日の7月1日に記念式典を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や市民の皆様をはじめご来場いただく方々の安全を考慮し、式典の延長を決定しました。会場でのソーシャルディスタンスの確保、マスク着用、手指の消毒等、感染防止対策をしっかりと行ったうえで、改めて12月23日に式典を開催したいと考えています。

なお、記念式典では、名誉市民を受賞されたお2人に加え、平成30年から本市のふるさと大使を務めていただいている漫才コンビ「ナイツ」の塙宣之氏の顔写真入り切手を記念品として参加者にお配りする予定です。

さらに、市制10周年記念にシンガーソングライターの小椋佳氏に作曲していただき、今なお市民に愛されている名曲「あびこ市民の歌」。今回、50周年記念として、再度小椋氏に録音していただきました。記念式典では、小椋氏と中学生があびこ市民の歌を歌う予定です。

そのほか、11月21日からは本市ゆかりの画家山下清氏の絵画展「山下清展」を開催します。テレビドラマ『裸の大將』で有名な山下氏は、放浪の旅に出る前、現在「唐揚げそば」で有名な我孫子駅の立ち食いそば屋「弥生軒」（当時は駅弁屋）で働いていました。今回の展示会では、市民等が保有していた未公開の作品も展示される予定です。ぜひ、ご来場ください。

今回、50周年を迎え、改めて先人達が残した歴史や文化を振り返り、そのありがたさを痛感しています。今後もこの大切な財産を守り、次の世代

へ「物語の生まれるまち」我孫子市を引き継いでいけるよう努めてまいります。

■ふるさと産品で市内産業を支援

本市では、地元産品を育成し、広く・永く定着させ、市内産業の活性化を図ることを目的に「我孫子市ふるさと産品」の認定を行っています。



将門麦酒

その1つ、地ビールの「将門麦酒」は、本市が平将門ゆかりの地であることから酒類として初めて選定されました。手賀沼を眼下に望む本市の日秀の丘の南端には「将門神社」が鎮座し、神社東方には将門が開いて軍用に供したと伝えられる

「将門の井戸」もあります。

将門麦酒の製造は柏市にある家族経営のブルワリー（ビール醸造所）ですが、将門神社が監修しています。通常より高めのアルコール度数7.5%の将門麦酒は、ほかのビールとは一線を画す、力強いコク深さが特徴です。クラフトビア・アソシエーション（日本地ビール協会）が主催する「ジャパン・グレートビア・アワーズ2019」では、銀賞を受賞しました。ぜひ、ビールのお好きな方に味わっていただきたいと思います。

また、「白樺派のカレー」は、白樺派の中心人物である柳宗悦氏の婦人である兼子氏が白樺派の文人達に振る舞ったとされるカレーを再現したものです。雑誌『民芸』昭和54年8月号「思い出すままに（柳兼子・談）」には、「カレーライスに味噌を入れたらうまいだろうとリーチ²の発案で田舎の粒味噌入りのおいしいカレーができた」とあります。



白樺派のカレー

※2 陶芸家バーナード・リーチ氏

そこで、食の研究者が長い歳月をかけて当時の文献を丹念に調べ、時代背景、食材や味覚等を考慮して作りあげました。その1つ、赤い箱のカレーは、川村学園女子大学で栄養学を学び、「食」に関する専門的な技能・能力を有する学生達とのコラボ商品です。市内産業の活性化だけでなく、カレーを通して、市民が自分達の郷土、これからの農業等を見直すきっかけにしてほしいと願っています。

■市民が安心して暮らせるまちへ

50年間というまちの歴史の中で、市内の公共施設も同じように年月を重ねてきており、修繕や建替えが必要な施設が出てきました。クリーンセンターはその1つで、既に建替え作業が開始され、また、湖北台保育園も、来年度から建て替え工事が始まります。わくわく広場の敷地内には保育園の園舎とわくわく広場の複合施設を整備する予定です。今後もまちの状態に合わせて建替えを行っていきたくと考えています。

また、市民が安心して暮らせるように、東消防署湖北分署は建替えだけでなく、現在5つの救急隊をもう1隊増やし、救急体制を強化する予定です。

高齢者向けの施策としては、住みなれた地域で生活できるよう、介護者の就労継続に必要なサービス利用等の把握・分析を行い、施設介護の充実、在宅介護の包括的な支援等をしっかりと準備してまいります。

認知症高齢者に対しては、専門家で構成する認知症初期集中支援チームの設置や認知症の方とその家族、地域住民等が気軽に集える「認知症カフェ」事業運営の支援等に取り組んでいます。今年度は、認知症高齢者行方不明対策として、身元確認用QRコード付きの「認知症高齢者等見守りシール」を配付する取り組みをスタートしました。



認知症高齢者等見守りシール

若い世代向けには、子育て世帯の経済的支援を目的に、本市はこれまで中学3年生まで医療費の自己負担額を通院1回、または入院1日200円となるよう助成してまいりました。さらに、2020年

8月からは、助成対象を高校3年生まで拡大し、高校生は自己負担額を通院1回、または入院1日500円としました。財源は、中学生の自己負担を100円引き上げ、さらに、特定疾病療養者見舞金制度および敬老祝金の対象を見直すことで確保しました。

また、本市は生後57日後から入園予約できるため、出産2カ月後に会社に復帰する場合、出産前に希望する保育園への入園予約が可能です。これは、30年もの間、「待機児童0人」を継続しているからこそできることだと自負しています。

さらに、市内の全小学校に19時まで開校している学童保育を用意しているほか、学校施設を活用し、小学生が放課後や土曜日の17時まで安心して過ごすことのできる「あびっ子クラブ」を整備しています。

あびっ子クラブの利用料は年間1,000円と経済的負担も小さいため、低学年時は学童保育、高学年はあびっ子クラブ等、年齢によって選択していただくことも可能です。仕事と子育て両立の一助となれば幸いです。



あびっ子クラブの様子

■筑波銀行に期待することをお聞かせください

新型コロナウイルス感染症の影響で、市内の飲食店をはじめとする中小企業や医療機関は困難な状況にあります。本市も様々な支援を行っていますが、まだ足りません。企業の元気がなくなるとまちの活力もなくなってしまいます。

そのため、筑波銀行には、既存企業の事業継続支援のため、金銭的な下支えをお願いしたいと思えます。

また、中小企業の商品開発や販路拡大等について、銀行の持つ知識や情報をご活用いただき、ぜひアドバイスいただければ幸いです。

画像提供：我孫子市